

令和 5 年度
東京都庭園美術館美術資料収蔵委員会
収集部会

令和 6 年 1 月 17 日（水）
東京都庭園美術館 新館 2 階会議室

午前9時58分開会

中村文化行政専門課長：それでは、少し早いですが皆様おそろいですので始めさせていただきます。

本日はお忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。ただいまから、令和5年度東京都庭園美術館美術資料収蔵委員会収集部会を開催いたします。

私は、東京都生活文化スポーツ局文化振興部文化行政専門課長の中村と申します。議事に入るまでの間、司会を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、東京都生活文化スポーツ局文化施設・連携推進担当部長の富岡より御挨拶を申し上げます。

富岡文化施設・連携推進担当部長：おはようございます。東京都生活文化スポーツ局文化振興部の文化施設・連携推進担当部長の富岡でございます。本日は皆様大変にお忙しい中、資料収蔵委員会に御出席いただきまして、改めましてどうもありがとうございます。

この庭園美術館ですけれども、昨年10月に開館から40周年という節目を迎えました。今年度は記念事業をいろいろ、館の職員が一生懸命頑張って展開をしてくれておりまして、この旧朝香宮邸を改めて読み解くという展覧会も開催予定としてございます。今後も、このアール・デコ様式を施されました歴史的な建物、それから緑豊かな庭園というこの特色を生かしまして、館のポテンシャルを最大限向上させるような取組をしていきたいというふうに考えているところでございます。本日は、御提案させていただきます作品資料につきまして、収蔵する資料としてふさわしいものかどうかということ、皆様の専門的な観点からぜひ御意見をいただければと思います。

以上、簡単でございますが、本日どうぞよろしくお願いいたします。

中村文化行政専門課長：では、本日御出席の委員の皆様を御紹介させていただきます。私から向かって左の席から御紹介いたします。

木田拓也委員でございます。

木田委員：木田です。よろしくお願いいたします。

中村文化行政専門課長：富田章委員でございます。

富田委員：よろしくお願いいたします。

中村文化行政専門課長：村上博哉委員でございます。

村上委員：よろしくお願いいたします。

中村文化行政専門課長：なお、土田委員と高波委員につきましては、事前に御欠席との御連絡をいただいております。

続きまして、事務局職員を御紹介いたします。

東京都庭園美術館副館長の牟田でございます。

牟田副館長：よろしくお願いいたします。

中村文化行政専門課長：東京都庭園美術館事業係長の森でございます。

森事業係長：森でございます。今日はよろしくお願いいたします。

中村文化行政専門課長：どうぞよろしくお願いいたします。

お手元の資料の御確認をお願いいたします。

まず会議次第がございます。次に資料1 東京都庭園美術館美術資料収蔵委員会（収集部会）委員名簿、資料2 東京都庭園美術館美術資料収蔵委員会設置要綱、資料3 東京都庭園美術館美術資料収集方針、資料4 令和5年度東京都庭園美術館における収蔵品購入に関する方針について、資料5 令和5年度東京都庭園美術館収集候補作品一覧表、資料6 作家・作品説明書、それから収集部会評価表がございますので御確認ください。

評価表につきましては、東京都購入案件のもの、それから東京都庭園美術館購入案件のものの2種類がございます。

なお、東京都庭園美術館の購入案件につきましては、後ほど牟田副館長より説明いたします。

本日配付いたしました資料につきましては、委員会終了時に回収させていただきますので御了承ください。

本委員会には収集部会と評価部会がございます。収集部会は、収集候補作品が東京都庭園美術館の収蔵品としてふさわしいか否かについて意見交換していただく部会になります。

それでは、議事に入ります前に、委員長の選任をお願いしたいと思います。当部会の委員長は、東京都庭園美術館美術資料収蔵委員会設置要綱第8の規定により、委員の方々の互選で定めることになっております。委員長の選任をお願いしたいと思います、いかがでしょうか。

木田委員：富田委員に委員長をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

中村文化行政専門課長：それでは、富田委員に委員長をお願いしたいと思います、よろしいでしょうか。

（ 異議なし ）

中村文化行政専門課長：それでは、委員長は富田委員をお願いいたします。

富田委員長：ただいま皆様の御推薦により委員長を務めさせていただくことになりました富田でございます。円滑な議事進行に御協力賜りますよう、よろしくお願いします。

では早速、議事に入りたいと思います。

まず、部会の公開について事務局より説明をお願いします。

中村文化行政専門課長：当部会の公開について説明させていただきます。当部会は、東京都庭園美術館美術資料収蔵委員会設置要綱第10の規定により、原則公開となっております。しかしながら、資料収集決定前の段階で対象資料の詳細を公開することにより、現在の美術資料所有者に不利益を生じさせるおそれがあること、また、資料の現物確認については、所有者から説明の参考用に借用していることから、委員会当日の段階では議事内容は非公開とすることが適当と考えます。

なお、当部会の議事録については、同要綱第10第2項の定めに基づき、資料収集決定の後、公開を予定しております。公開に当たって、委員の皆様には追って内容の確認をさせていただきます。

また、委員の皆様のお名前と現職名は、東京都のホームページ上に公開しております。

議事内容を非公開とするには、同要綱第10第1項（2）及び第2項（2）の規定により、部

会での決定が必要になります。このことについて、事務局といたしましては、委員の皆様にお諮りいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

富田委員長：それでは、収集部会の公開の是非についてお諮りいたします。

事務局から本部会については非公開が適当との意見がございましたが、委員の皆様、いかがでしょうか。

(異議なし)

富田委員長：異議がないようですので、ここから先の本部会の議事内容は非公開とさせていただきます。

では早速、議事に入りたいと思います。

事務局から収集候補作品の説明をお願いいたします。

牟田副館長：それでは、私から、まずお手元の資料3 東京都庭園美術館美術資料収集方針につきまして説明させていただきます。よろしいでしょうか。

当館における作品収集の基本的考え方でございますけれども、まず、当館は、歴史的な価値を有する建造物である旧朝香宮邸を保存し、及び公開するとともに、その建物及び庭園を生かして美術作品等を展示することにより、もって都民の教養並びに学術及び文化の発展に寄与するため設置をされております。この設置目的を果たすために必要な美術作品等を収集するということが基本的な考え方としております。

続きまして、収集対象でございますが、4項目ございまして、まず、ア 旧朝香宮邸旧蔵資料及び美術資料、イ 旧朝香宮邸建設に関わったアーティスト及び団体が制作した美術資料、ウ アール・デコ様式との関連を有する美術資料、エ 建物公開及び庭園公開事業で必要とされ、芸術的、資料的価値が高いと認められる美術資料、この4つの観点から、収集対象を選定しております。

続きまして、3番の収集分野でございますが、アからケまで分類をいたしております。それぞれ絵画、彫刻、工芸、デザイン、家具、服飾・装身具、映像写真等による造形表現、資料、その他というふうになっております。後ほど、それぞれ作品の説明書に基づいて個々の案件を説明させていただきますが、その際に分類として出てきますアやイといったような分類は、この方針に定めました収集分野に基づく表記でございます。

4番の収集方法でございますが、収集は購入、寄贈及び寄託等によるものとする。収集に当たっては、学識経験者を中心とした「東京都庭園美術館美術資料収蔵委員会」の意見を聴くものとしております。

今年度の候補作品について、続いて説明をいたしますが、本日も意見をいただく案件につきましては、購入作品9件となっております。このうち、例年と異なる運用がございまして、9件のうち7件が例年どおりの都費による購入案件で、2件につきましては、館独自の予算で購入をし、続いて東京都への寄贈という形で収蔵を図るものでございます。

先ほど、事務局からの御挨拶の中にもございましたけれども、当館、今年度開館40周年という記念の年を迎えておりまして、何かそれにふさわしい事業ができないかということで、各種イ

ベント的なものを手がけてきております。それとともに何か後に残るようなものも今回できないかということで、作品の収集ということを選びました。展覧会等の充実に資するために、年間協賛をいただいております中から一部を作品購入に充当し、当館購入分ということで2件を選定いたしました次第です。

したがいまして、今年度のこの収集部会につきましては、都費による購入案件7件の収蔵の適否及び東京都庭園美術館独自の財源に基づく購入案件2件の取得及び東京都への寄贈について御意見をいただくということになります。

それでは、個々の作品の説明に入らせていただきます。

森事業係長：今お話をしました収集方針に則り、今回の候補作品について簡単に説明させていただきます。資料6のほうを御覧いただければと思います。画像がついたA3の資料となります。今回、全部で9点となります。

まず1番です。エドゥアール・ベネディクトゥスの「ヴァリアシオン」です。エドゥアール・ベネディクトゥスは装飾美術家、画家、作曲家、編集者等、多様な分野で活躍した人物で、皆様、恐らく御記憶かもしれませんが、昨年度の収蔵委員会においても、「ヌーヴェル・ヴァリアシオン」という、同じベネディクトゥスのデザイン集について意見交換していただきました。その結果、当館ではベネディクトゥスが手がけたデザイン集を現在のところ2つ所蔵しておりまして、ベネディクトゥスは生涯に3点発行していると聞いておりますが、こちらの「ヴァリアシオン」はその3つ目の作品で、発行年としては一番初期に手がけたものになります。

既に収蔵しているその他の2冊については展示でも活用している関係で、このもう一つのデザイン集を探しておりまして、今回コンディションがよく、色彩も美しいままであり、全てのプレート集20点がそろっているものが見つかり、今回の収集候補といたしました。

ベネディクトゥスといえば、当館本館の殿下居間の壁紙やカーテンのデザインを担当した、当館にとっては重要な作家の一人です。本館の主要客室の内装を手がけたアンリ・ラパンとの協働により、1925年のアール・デコ博でも非常に高い評価を得た作家でもあります。とはいえ、現在、日本ではまだ十分に紹介する機会を得ておりませんので、この第3冊目のデザイン集の収蔵を期に、この朝香宮邸にゆかりのある作家をさらに調査研究を深めていき、いずれ将来的にその発表の機会をつくれたらと思っております。

次は、ルネ・ラリックのガラスの小品です。2番と3番がルネ・ラリックの「メニュー」という作品になっております。いずれも食卓のテーブルの上で使うガラスのメニューです。

ラリックの「メニュー」といえば、紙を差し込んで使用するメニュー立てのシリーズが幾つかありますが、こうした直書きタイプは4種類ありまして、そのうち「ぶどう」が2種類、あとは魚と鳥の全部で4種類とレゾネで書かれております。2番が「ぶどう（マスカット）」で、3番が「（シャスラ）」という、ワインの原料になる品種であると聞いております。

ラリックといえば当館にとっては最も重要な作家の一人であり、たくさんコレクションを持っており、また、個展も数回開いてきました。

この作品は非常に小品ながらも、当館にとってはそのモチーフであるとか、あるいは機能の点

からも非常に興味深いものであり、特に当館の大食堂にはリックのシャンデリア、「パイナップルとざくろ」があり、同じ果実というモチーフの接点からもテーブルセッティングの再現展示の際に非常にいいアクセントになると考えております。ぜひ建物公開展を中心に活用していきたいと考えております。

4番は現代美術作家、さわひらきによる映像作品です。この映像作品は旧朝香宮邸を撮影した映像を用いたもので、白黒の長さ7分23秒のものになっています。2022年の秋の展覧会「旅と想像／創造」に出品されたものになっています。作家の、さわひらきはイギリスのロンドンを拠点に、非常に国際的に活躍している映像作家です。日本や海外でも個展も開かれまして、海外芸術祭にも招かれていて、非常に高い評価を得ている作家の一人です。

映像の特徴としては、見慣れた日常風景の中に小さな模型の飛行機が飛んでいるとか、想像上の生き物が登場したり、リアルとファンタジーが混在するような映像世界が非常に強い想像力を喚起するものになっています。

本作品は、旧朝香宮邸の中に、この写真にあるように小さなジェット機が飛び交うものなんです。その中には朝香宮ゆかりの小さな旧来のプロペラ機も飛んでくるというような映像になっております。何かこれが過去なのか現在なのか、その2つの世界を自在に横断するこの映像は、私たちが90年前の世界へといざなうものになっています。

当館には、朝香宮邸の古い記録とか写真とか、そういったものはたくさん残されていますけれども、この映像のように、当時の人々がいたときの余韻であるとか、あるいは歴史的な空気感をノスタルジックに想像させるようなタイムスリップをしていくような作品というのは非常に希有な作品というか、貴重な作品としてぜひ建物公開展でも活用していきたいというふうに考えております。

次、5、6、7番については、これは朝香宮にまつわる、由来する資料で、2点がアルバム、それから1点が朝香宮夫妻の肖像写真になっています。5番、それから6番に関しては朝香宮が1925年頃にフランスで滞在していた頃に撮られたと思われる写真で構成されたアルバムになっています。朝香宮は1922年末から25年まで、長きにわたりフランスに滞在しましたが、御自身が非常にカメラが大好きで、海外製のカメラも所有をされており、滞在したときも同行者のポートレートや訪ねた先の風景写真を数々撮影しています。

この5番のものは、1925年に、南仏に旅行した際に、南仏からパリまでの自動車旅行の旅路を撮影した写真で構成されています。

そして、6番のものは、スカンジナビア、スコットランド、ドイツを視察したときの写真で構成されているものです。朝香宮はフランス滞在時に視察を兼ねて各国を訪ねておりますが、まだその詳細については解明されていないことも多く、こうした写真資料を入手することにより、抜けていた足跡や行動の穴を補完する一助とすることができます。ほかの文字資料、文字記録等もありますので、そういったものと照合し、新たな事実発見等も期待されると思います。こちら建物公開展等において、お客様にダイレクトにお二人の姿、あるいは当時の様子等を知らせることも期待できると思います。

7番が朝香宮夫妻の肖像写真になっています。こちらは恐らくパリ時代に撮られたポートレートだと思われまして、日本の肖像写真というと、どちらかというと少し緊張感がある格式のある肖像写真が多い中で、表情とかポーズとか、あるいは妃殿下の洋装等が、まるで映画のワンシーンのように見えますし、洗練された当時のパリの雰囲気の色濃く伝えるものとして広く活用していきたいと思っております。

次の2点に関しては、庭園美術館の購入作品の2点となります。2点ともガラスによる工芸作品になっておりまして、どちらも非常にインパクトのあるミュージアムピースと言える作品です。

館購入の一番目の作品は、フランソワ＝エミール・デコルシュモンの「鉢」です。デコルシュモンは20世紀前半にパリで活躍したフランスのガラス工芸家で、色ガラスの粉末を型に詰めて成形するパート・ド・ヴェールパート・ド・ヴェールの製作に生涯注力し、その成形や鋳造、研磨の方法、素材の組成等に独自に研究を重ね、様々なオリジナリティある作品を創出しております。

本作品が製作された1920年代には、アール・デコ期へと移り変わる中で、デコルシュモンもまた幾何学的な文様や、軽やかというよりも、どちらかというと少し重厚感のある造形にシフトしていく時代になっています。

本作品はそのアール・デコ期のパート・ド・ヴェールによる美しい青の色みが複雑に混じり合う、非常に印象的な作品になっています。鉢の外側には幾何学模様が施されていて、内部の底面には果実の模様が少し浮彫りのように浮かび上がっているものです。ガラス器といえば当館にとってはラリックが中心になっておりますけれども、同時代に製作されたデコルシュモンのこの作品もまた、少し異なる特色を持つガラス作品であり、アール・デコ期のガラス表現のバリエーションや幅広さを伝えられる一点になると思います。

最後の2番の作品です。こちらは、ドーム兄弟とルイ・カトナによる「テーブル・ランプ」です。

ガラスのシェード部分は、アール・ヌーヴォーからアール・デコ時代にフランスで活躍したドーム兄弟が作ったもので、下の台座部分に関しては鍛鉄の工芸家ルイ・カトナによる共作になっています。この2者の組合せでこうしたテーブル・ランプが複数製作されています。

このシェード部分なんですけれども、直線的な構成で、シンプルでインパクトのあるデザインで構成されています。一方、土台部分はフォルムも球体の形をしており、そこに少し渦巻模様の曲線による装飾が施されています。この上下のデザインのユニークなコントラストであるとか、白と黒の対比、あるいは鉄とガラスというコントラストから、非常に見事で、アール・デコ期を象徴する非常にいい作例だと考えております。

また、同時に、当時の当館の本館でこの作品を明かりをともし、照明器具として展示することにより、当館の当時の室内空間が持っていた光と影のグラデーションやニュアンスといったものを、お客様に直に体験していただけるのではないかと期待しているものです。

簡単ですが、ここでの説明の後に、これから実際に実見していただきまして、また何かあれば御質問にもお答えしますし、説明もさせていただきたいと思っております。

富田委員長：ありがとうございます。

作品を実見する前に、この場で何かお聞きになりたいことはございますか。よろしいですか。
では、これから作品の実見をしたいと思います。案内をよろしくお願いいたします。

(委員離席)

(作品実見)

(委員着席)

富田委員長：では、今、作品を拝見しました。あの場でもいろいろ質問が出ましたが、何か他に御質問等ございますか。

では、意見交換に移りますが、作品の評価方法等について、まず、事務局から御説明をお願いいたします。

中村文化行政専門課長：作品の評価方法について、説明させていただきます。

お手元にごございます評価表のほうを御覧ください。評価表には今回の収集候補作品が一覧で記載されております。作品ごとにA、B、Cの3段階で評価していただきます。Aは「収蔵すべきである」、Bは「収蔵してよい」、Cは「再検討を要する」という評価になります。A、B、C、いずれかに丸をつけていただきます。

委員の皆様様の御記入後、事務局で評価表を回収させていただき、確認いたします。

評価方法の説明については以上です。

なお、確認の結果、C評価がついた作品があった場合、後ほど評価した委員に理由のほうをお伺いできればと思います。

富田委員長：では、何か御質問等ございますでしょうか。よろしいですか。

では、まず御記入のほうをお願いいたします。

(委員評価表記入・回収)

富田委員長：Cの評価は該当なしということでございました。

では、委員の皆様から総評といいますか、個々の作品についての御意見でも結構でございますので、いただければと思います。

木田委員からよろしいですか。

木田委員：今回、収蔵候補の作品を拝見して、この館の性格とか、これまでの活動、それとこれからの展示活動も含めて、非常に有機的に生かされそうな作品群だと思って拝見しました。

特に写真アルバム等は、書き込みなんかもあったりして非常に資料として、あるいは研究の素材としても興味深いもので、それがまた展示で生かされるのがとても楽しみだなと思いました。

また、館購入案件のガラス作品ですけれども、どちらもとてもきれいな作品で、サイズの的には少し小さい印象はありますが、でも美しさ、きれいな作品ということで、とてもいいものだなと思いました。ありがとうございました。

富田委員長：ありがとうございます。

村上委員、お願いします。

村上委員：いずれも収蔵すべきものとして、拝見して、数は多くないですけれども、これだけ拝見しただけでも何か 1920 年代のパリの雰囲気 that 彷彿とするような、一つの時代というものを鮮

明に浮かび上がらせるととてもすばらしい収集だと思いますし、また、担当の方々の御説明も大変的確で、収蔵の意義とか、これからの活用方針等が非常によく分かりました。

ベネディクトゥスのポートフォリオは、以前に既に2種購入されて今回で完結するということで、もちろんこれまでの収集を継続して完結させるということは非常に意義のある購入だと思います。

それから、さわひらきさんの映像は、私が以前勤めていた愛知県美術館で2006年に、たしか展覧会で作品を紹介して、とてもポエティックな作品を作る、独特の感性のあるいいアーティストだなと思っていました。でも、それから20年近く経つわけで、中堅というか、既に地位を築いた作家家だと思う。庭園美術館が舞台になっていますから、こちらで収蔵されて公開されるのはとてもふさわしいと思いますし、また、これも40周年を記念する作品の一つというふうに言えるんじゃないかなと思います。

あと、庭園美術館購入の2件に関しては、私は工芸はあまり詳しくないのですが、やはり庭園美術館の空間に非常にマッチする作品で、環境展示といいますか、庭園美術館の空間と一体となるような展示の一部になる、非常に意義のある収集だと思います。

私は庭園美術館が開館したとき大学生の最後で、最初はたしかグッゲンハイム美術館のコレクション展、とてもよく覚えています。すごくおしゃれな美術館がオープンして、とてもうれしかったですね。それから何度もこちらには伺っています。それからもう40年もたったというのは感慨がありますけれども、こういった形でオリジナルの建物と調和する作品をずっと継続して収蔵されているということは、本当に大変すばらしいことだと思います。

富田委員長：ありがとうございました。

私からも一言、二言申し上げます。今回の購入案件、非常によく吟味された上での御選択だなと感じまして、いずれの作品もこの館で収蔵するのにふさわしいと思いました。

ラリックの「メニュー」というのがありましたけれども、ラリックの作品というどうしても現在は美術館で鑑賞することが中心になっていて、当時、実際に使われていたというイメージがなかなか湧かないんですけれども、こういうメニュー板みたいなものだと、ああ、なるほど、ラリックって、やっぱり日常生活の中で、もちろんハイクラスの人たちですけども、扱われていたんだということがすごく、ある意味生々しくよく分かるので、そういう意味でも大変いい収集ではないかなと思いました。

それから、さわさんの作品、非常に水準の高い作品だと思いますけれども、特に僕が感心したのは、非常にいいショットをちゃんと捉えていらっしゃるなというところで、窓の外に飛行機が通るのがガラスの歪みで少し歪むというのが、古いガラスをちゃんと残しているということをきちんと見ていらっしゃるなというようなところも感じられて、見ていて全体的に気持ちのいい作品ですし、展示効果も非常にあると思いますので、いい収集であると思いました。

開館40周年という、本当に私もびっくりというか、感慨深いものが、もうそんなに経ってしまったのかという気がします。円安があったり、それから輸送関係なんかも来年度から非常に難しくなってきたような状況もありますけれども、その中で、ぜひいい1年にしていいただければなど

いう思いを持っております。

ほかに何か御発言ございますか。よろしいでしょうか。

では、これをもちまして収集部会を終了いたします。

委員の皆様、ありがとうございました。

では、事務局のほう、よろしくお願いいたします。

中村文化行政専門課長：富田委員長、ありがとうございました。

冒頭に説明させていただきましたが、お配りしました資料一式は回収いたしますので、机の上に置いたままにしていいただければと思います。

これをもちまして、令和5年度東京都庭園美術館美術資料収蔵委員会収集部会を終了いたします。

委員の皆様、本日はありがとうございました。

午前 11 時 24 分閉会

以上